

藤岡家住宅・平成28年4月～6月の展示

浦嶋太郎

全三十八
千三百三十四年

にせんねんそでかがみ

二千年袖鑑

黒船前夜・大坂商人がつくった二千年間の案内書 天の巻・地の巻

展示期間 平成28年4月1日(金)～6月25日(土)

「二千年袖鑑
天の巻」より
浦嶋太郎

登録有形文化財「藤岡家住宅」・NPO法人うちのの館^{やかた}

〒637・001 奈良県五條市近内町 526 9時～4時 月曜休館。祝日のときは翌日休館
☎とFAX 0747(22)4013 info@uchinono-yakata.com http://uchinono-yakata.com
大人(高校生以上)300円・小中学生200円・20名様以上2割引

二千年袖鑑（そでかがみ）

～黒船前夜 大坂商人が作った2000年の案内書 天の巻・地の巻～

展示期間：平成28年4月1日（金）～6月25日（土）

登録有形文化財「藤岡家住宅」にて 高校生以上300円・小中学生200円

「日本・唐土 二千年袖鑑」（にほんもろこしにせんねん そでかがみ）という書物は、上巻（天）と下巻（地）から成る小型の案内書で、黒船前夜と言える時代の大坂（大坂・浪華）で発行されました。嘉永2年（1849）から嘉永5年（1852）を基準の年に定め、そこからさかのぼって二千年の間に起きた事件や事象を一見無作為に書き上げています。天変地異、人形浄瑠璃、義太夫、からくり、相撲、商家、遊女、花火、武士、化け物のこと、近松門左衛門の心中もののモデルたち、神社仏閣、名所旧跡なども並べられていて、巻物のように広げてみると、人々に華やかに賑わう大坂の風景がそこに立ち上がってくるようです。天の巻の最初のページには「浦島太郎」が。地の巻の最初のページには「在原業平」が大きく描かれているのも興味深い趣向です。浦島太郎が玉手箱を開けるように、書物を追っていくというのでしょうか。庶民の興味のある事項が並んでいるので、往時の人々の生活ぶりや趣味趣向を知ることができ、民俗学の視点からも貴重な資料と言えるでしょう。嘉永5年は、ペリー提督が大統領の国書を持って日本に出発し、後の明治天皇がご誕生になった年でもあります。この時期、明治維新という時代の大きな変革を受け入れて行く商都大坂の人々のようすをアライブに感じて戴ければと思います。4月9日から6月3日までは藤岡家所蔵の武者人形を展示しますので、合わせてお楽しみ下さい。

二千年袖鑑に記された事項より（抜粋）



文政9年（1826）大坂難波新地で駱駝を見せる。見せ物が人気を博していた。



元禄10年（1698）没一世を風靡した美女勝山。勝山まげを流行させた。



寛政7年（1795）没。最強の関取と言われた2代目谷風。相撲人気は大きい。



応永16年（1409）京都五条の大橋が始まる。高瀬舟は慶長年間から。大文字送り火は延暦22年（803）より。



黒焼所、正保4年（1647）大坂高津のとりや市場で開店。イモリの黒焼きなど一切の黒焼を作り繁盛した。



鴻池。明暦3年（1657）新田の開発に成功。寛文5年（1665）清酒の醸造に成功。大坂に新出。十人両替の一。



安治川（あじがわ）貞享年中、川村瑞賢安治（かわむらざいけん やすはる）といふ人水道の地理に訓練し此の川條（かわすじ）を堀（ほり）しにより安治（やすはる）の音を呼んで安治川と号す。浪花大川筋および土佐堀蜷川などの下流にして諸国廻船入津（いりつ）の河口なりたる程に安治川橋より下を望めば千石二千石の海舶水上につどひて碇（いかり）を下ろし風の順不順潮時の満干を考ふ。あたかも万船をもつく町小路を作れるごとし。